

平成 22 年度 総会および研修会を開催

はじめに

道北技術士会では、定例の総会および研修会を開催しました。当日は北海道支部より森事務局次長をお迎えし、総勢 22 名の出席となりました。

以下にその概要を報告します。

日時：2010 年(平成 22 年) 4 月 17 日(土)

13:00～19:00

場所：旭川ターミナルホテル

参加：22 名(道北会員 19 名)

講師：社団法人日本技術士会北海道支部
事務局 次長 森隆広氏

概要：

- (1)平成 21 年度 技術士一次試験結果
- (2)平成 21 年度 技術士二次試験結果
- (3)技術士会北海道支部の会員数
- (4)日本技術士会の公益法人化への動きについて
- (5)協賛会員から「会友」への名称変更について
- (6)理事会(本部)からの話題について

1. 定時総会

総会では以下の議案について審議し、全回一致で承認された。

議案第 1 号 平成 21 年度事業報告および決算報告

議案第 2 号 平成 22 年度事業計画案および予算案

平成 22 年度の事業計画では道北地域の活性化に資するために社会動向や時宜に合った話題提供と継続研鑽の機会として CPD 活動、会員相互の技術向上と情報交換などを行っていくことが確認された。



事務局次長 森隆広氏の講演



定時総会

演題 2：上川地域の発展と河川事業

講師：財団法人旭川河川環境整備財団
専務理事 庄司雄三氏

概要：

旭川は川のまちであり、河川整備とともに発展してきた歴史がある。旭川を流れる主な川には石狩川、牛朱別川、忠別川、美瑛川があり、明治から現在までの地図や写真を通して川の移り変わりを学んだ。また長年、河川行政に携われてきた庄野氏のご経験から河川整備に関する当時の苦労話を伺い、特に永山新川(牛朱別川分水路)の切り替え工事での経験談で

2. 研修会

演題 1：技術士を巡る最近の動向について

は興味深い話もあり、河川整備が旭川の発展に寄与してきたことを改めて認識した。



専務理事 庄司雄三氏の講演

演題 3：旭川駅周辺開発について

講師：旭川市都市建設部

駅周辺開発課 課長 辻野隆行氏

概要：

旭川市では「北彩都あさひかわ」と冠し、旭川駅周辺の総合開発を進めている。鉄道の高架や駅舎の建て替えだけでなく、周辺の区画整理や旭川駅を南北に横断する道路の整備を計画し、2014年(平成26年)の完成を目指して工事が進められている。

旭川市は近年、周辺部の開発や人口増加に伴い、既成都市部の活力は年々低下しており、中心部の活力を維持し都市を再生することが期待されている。



駅周辺開発地 屋上からの見学状況

演題 4：観光資源からの地域振興

講師：社団法人旭川観光協会

専務理事 重野健一氏

概要：

旭川観光の現状と今後

- (1) 現状・課題・特徴
- (2) 灯台下は暗いもの
- (3) そもそも「観光」とは？
- (4) 他所者の見る旭川
- (5) 違う物差しで見る→再発見

旭川は近年、観光入込客数は増加傾向にあるが、宿泊者数の増加率は鈍化しており、旭川の観光は滞在型ではなく通過型であることがデータから伺える。観光立国を目指すにはまずは地元の人々が地元の価値を認識することが重要であり、また旭川には「Resort」としての素地が十分にあり資源を有効に活用していく必要がある。



専務理事 重野健一氏の講演

おわりに

例年、本会では地域の活性化や地域資源の活用等様々な分野において道北地域でご活躍されている方々を講師にお招きし研修会を開催しています。今年の研修会も地域の活性化を考える上で参考となる事例が多く参加者からも好評でした。

最後に、研修会にご協力頂いた講師の方々にお礼を申し上げ、ご報告とします。